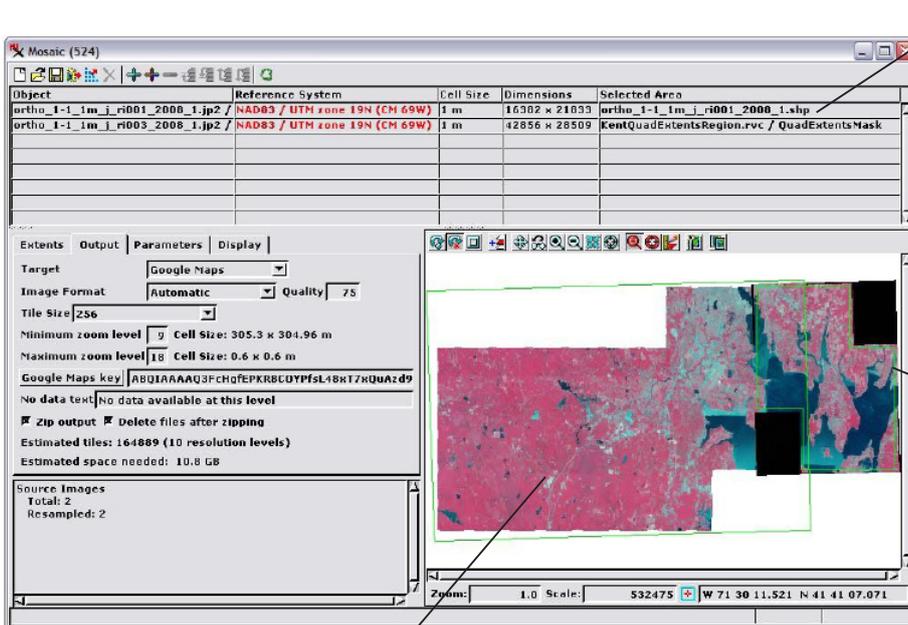
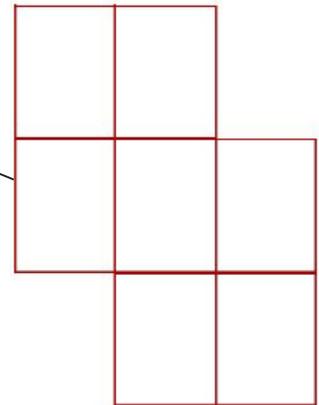


# 選択領域のモザイク

TNTmips の [自動モザイク (Auto Mosaic)] 処理 ([ラスタ] > [自動モザイク](Raster/Auto Mosaic)) メニューでは、入力ラスタオブジェクト (またはバンドや RGB 成分に分かれたラスタセット) の全て、またはそのうちのいくつかを選択して、TNT 形式の出力や、Google タイルセットもしくは TNT ラスタオブジェクトを作ることが可能です。前に作成してあるオブジェクト (リージョン、ベクタ、シェイプ、もしくはサイズの一一致するバイナリのラスタマスク) を選択して、各入力ラスタに適用する処理領域を定義することができます。2つ以上のポリゴンもしくはシェイプを含むベクタやシェイプオブジェクトを選択した場合、これらのポリゴンの結合体 (ユニオン) の輪郭 (即ち、内部の島ポリゴンを除く外郭ポリゴン) を使用して処理領域が定義されます。オブジェクトを選んで定義した処理領域は、全入力ラスタの他、選択した入力ラスタのみに対しても適用することができます。2 ページのように、標準のジオツールボックスの描画ツールを使用して、<モザイク>ウィンドウの表示エリア内に手でポリゴンを描いて、それをリージョンオブジェクトとして保存して、処理領域の定義に使用することも可能です。



[オブジェクト (Object)] リスト内の [選択領域 (Selected Area)] の項目には、処理領域の定義のために選択した空間オブジェクトの名前が表示されます。処理領域を指定していない場合、このフィールドは、“全て (All)” となっています。



モザイクレイアウト内の左側のラスタには、バイナリのラスタオブジェクトによって定義された選択領域があります。このバイナリのラスタオブジェクトはマスクとして適用され、マスクによって除外された (選択されない) 領域を自動的に透明表示しています。入力ラスタの元の長方形の範囲は、色の付いた外枠で表示されます。

モザイクレイアウト内の右側の入力ラスタは、シェイプオブジェクト (右上の図) によって定義された処理領域があります。このシェイプオブジェクトはマップグリッドを表わす複数のシェイプ図形 (ポリゴン) で構成されています。図形の外側の境界線のみが選択領域の定義に使われます。シェイプやベクタ、リージョンオブジェクトを用いて選択領域を定義する場合、入力ラスタの領域は定義した処理領域だけを表示するように変わっています (図では分かりやすく黄色の輪郭で表示)。

## 個々の入力ラスタに対する処理領域の選択

処理領域アイコン



Selected Area
All
All Selected Area
All
Choose...

特定の入力ラスタに対して処理領域を定義するオブジェクトを選択するには、<モザイク>ウィンドウの入力リスト内のラスタ名の上で左クリックして反転表示し、[処理領域 (Processing Areas)] アイコン (図の赤丸で囲んだ部分) を押し、ドロップダウンメニューから [処理領域の選択 (Choose Processing Areas)] を選択します。もしくは、そのラスタのリスト上で [選択領域 (Selected Area)] フィールドを右クリックして (ラスタが反転表示していても、いなくても)、右上の図のようにポップアップ

メニューから [選択 (Choose)] を選びます。すると標準の [オブジェクトの選択 (Select Object)] ダイアログが表示され、リージョンやベクタ、シェイプもしくはサイズが同じバイナリのラスタオブジェクトの選択が可能になり、その入力ラスタに対して処理領域を定義できます。

## 複数の入力ラスタにまたがる処理領域の選択

Object	Ref: Choose Processing Areas...	Cell Size	Dimensions	Selected Area
ortho_1-1_1m_j_ri001_2008_1.jp2	NAD Automatic Processing Areas	1 m	16382 x 21833	All
ortho_1-1_1m_j_ri003_2008_1.jp2	NAD Reset Processing Areas	1 m	42856 x 28509	All
ortho_1-1_1m_j_ri005_2008_1.jp2	NAD83 / UTM zone 19N (CM 69W)	1 m	32264 x 29029	All
ortho_1-1_1m_j_ri007_2008_1.jp2	NAD83 / UTM zone 19N (CM 69W)	1 m	42964 x 43480	All

Selected Area	
All	Choose Processing Areas...
All	Automatic Processing Areas
All	Reset Processing Areas

一度の操作で複数の入力ラスタに対する処理領域を定義するオブジェクトを選択することも可能です。< Ctrl >キーを押しながら入力リスト内の選択したい入力ラスタの上で左クリックして複数の行を反転し、[処理領域 (Processing Area)] アイコンを押してドロップダウンメニューから [処理領域の選択 (Choose Processing Areas)] を選択します。(右上の図のように [選択領域 (Selected Area)] の項目の上で右クリックしても、

同じメニューにアクセスできます。) [オブジェクトの選択 (Select Object)] ダイアログが表示され、反転表示された入力ラスタに対して処理領域オブジェクトを選択することができます。[処理領域] アイコンを押した時に反転表示した入力ラスタがない場合は、各入力ラスタに対して処理領域オブジェクトを選択するよう促されます。

## 処理領域の自動追加

Object	Ref: Choose Processing Areas...	Cell Size	Dimensions	Selected Area
ortho_1-1_1m_j_ri001_2008_1.jp2	NAD Automatic Processing Areas	1 m	16382 x 21833	All
ortho_1-1_1m_j_ri003_2008_1.jp2	NAD Reset Processing Areas	1 m	42856 x 28509	All
ortho_1-1_1m_j_ri005_2008_1.jp2	NAD83 / UTM zone 19N (CM 69W)	1 m	32264 x 29029	All
ortho_1-1_1m_j_ri007_2008_1.jp2	NAD83 / UTM zone 19N (CM 69W)	1 m	42964 x 43480	All

モザイク処理をしたい入力画像が TNTmips で直接使用できる画像形式 (JP2 もしくは GeoJP2、TIFF もしくは GeoTIFF、MrSID、その他) のファイルであり、各画像の処理領域が、画像ファイルと同じファイル名のシェイプファイルで定義されている場合、処理領域を自動で追加することができます。[処理領域 (Processing Areas)] アイコンを押すか、[選択領

域 (Selected Areas)] の項目を右クリックして、メニューから [自動処理領域 (Automatic Processing Areas)] を選択します。選択プログラムは、関連する画像と同じディレクトリ内で、ファイル名の一致するシェイプファイルを検索します。見つからなかった場合には、検索するディレクトリの指定を促されます。

## 処理領域の削除

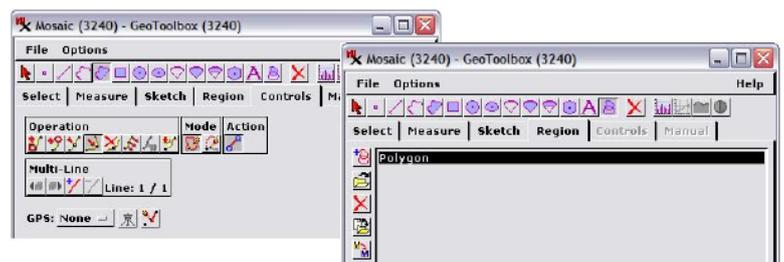
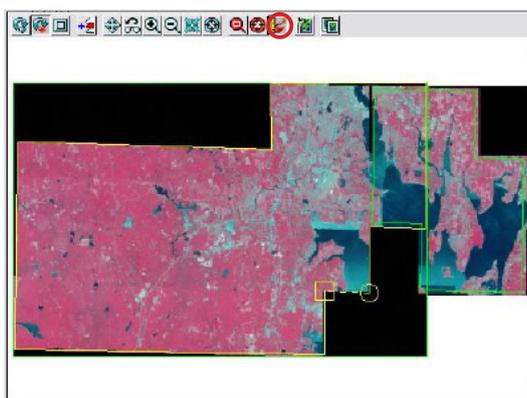
処理領域を削除し、入力ラスタ全体を使用するように設定を戻すには、そのラスタのリストの [選択領域 (Selected Area)] フィールド上で右クリックし、ポップアップメニューから "全て (All)" を選択します。

Selected Area	
ortho_1-1_1m_j_ri001_2008_1.shp	2008_1.shp
ortho_1-1_1m_j_ri003_2008_1.shp	2008_1.shp
ortho_1-1_1m_j_ri005_2008_1.shp	All
ortho_1-1_1m_j_ri007_2008_1.shp	Choose...

全入力ラスタの処理領域を削除もしくはクリアするには、[処理領域 (Processing Areas)] アイコンを押すか、[処理領域 (Selected Area)] の項目を右クリックして、ポップアップメニューから [処理領域のリセット (Reset Processing Areas)] を選択します。

Selected Area	
ortho_1-1_1m_j_ri001_2008_1.shp	Choose Processing Areas...
ortho_1-1_1m_j_ri003_2008_1.shp	Automatic Processing Areas
ortho_1-1_1m_j_ri005_2008_1.shp	Reset Processing Areas
ortho_1-1_1m_j_ri007_2008_1.shp	Reset Processing Areas

## 処理領域の定義のためにジオツールボックスを使ってリージョンを描画／保存する



1つの入力ラスタに対して処理領域を手動で定義するには、<モザイク>ウィンドウの表示ペインの一番上の [ジオツールボックス] アイコン (左図の赤丸で囲んだ部分) を押し

ます。標準の<ジオツールボックス>ダイアログの描画ツールを使って、領域を描いたり、それから一時的にリージョンを作ったり、プロジェクトファイルに保存したりできます。その後は上で説明した手順に従って、保存したリージョンオブジェクトを選択して、入

ラスタの処理領域を定義することができます。ジオツールボックスを使って領域を定義する手順に関しては、"対話的リージョン解析 (Interactive Region Analysis)" というチュートリアルで説明しています。